

公共交通のこと
考えてみませんか？

きづがわ

公共交通だより

発行日
平成30年
12月1日

vol.
124

木津川市では、市民の皆様にとって使いやすく満足度の高い地域公共交通づくりに取り組んでいます。今月号では、バス停ネーミングライツの募集、標語入賞作品の発表、公共交通利用者の声についてお知らせします。

バス停ネーミングライツ(命名権)を募集します



木津川市地域公共交通総合連携協議会では、新たな財源を確保し、利用者の利便性向上を図るため、市内を運行するコミュニティバスのバス停ネーミングライツを募集します。

持続可能な公共交通の構築のため、地域で公共交通を支えるとともに、事業者様の地域貢献活動や広告PRツールの一つとしてぜひご検討ください。

① 内容

- コミュニティバスのバス停副名称として企業・事業所・商店名等を掲示(右図参照)
- バス時刻表や公共交通だよりにバス停副名称を掲載
- きのつバス、かもバス当尾線の場合、車内アナウンスを追加
- 年1回程度、公共交通だよりに企業情報等を掲載

② バス停名の条件

① 応募対象

希望されるバス停に近接している企業、事業所及び商店などを応募対象とします。

② バス停掲載文字数

バス停に掲載する文字数は、概ね12文字以内を目安とします。

③ 掲載期間

掲載開始月から3年間

④ 掲載料

- きのつバス・かもバス当尾線(各1か所)
バス停2基以上ある場合 120,000円/年
バス停1基の場合 100,000円/年
- その他路線(各1か所)
バス停2基以上ある場合 60,000円/年
バス停1基の場合 40,000円/年

※1 同一のバス停に複数の応募があった場合は、入札を実施します。

※2 路線が重複しているバス停は、高い金額の掲載料を基準とします。

※3 各バス停の掲載料については、市ホームページをご確認ください。

【掲載のイメージ】



木津川市コミュニティバス

木津川市役所(〇〇〇〇前)
kizugawashiyakusyo 〇〇〇〇(ローマ字)

【本名称】

【副名称】

※ネーミングライツとは
公共施設や歩道橋、スタジアム等に企業等の名称を付与する権利(命名権)及びこれに付帯する諸権利等をいいます。



⑤ 応募期限

平成30年12月25日(火)まで

⑥ 応募方法

次の2つの書類を下記提出先までご持参ください。

- ①木津川市コミュニティバスのバス停広告掲載申込書
- ②会社案内やパンフレット等の業種や業務内容のわかる資料

※「申込書」は市ホームページからダウンロードできます。

⑦ 市ホームページ

URL:<http://www.city.kizugawa.lg.jp/index.cfm/6,34006,13,414,html>

⑧ 提出先

木津川市役所 4階 学研企画課

応募についてご不明な点がございましたら、学研企画課(☎75-1201)にお問い合わせください。

裏面へつづきます

平成30年度公共交通の利用促進をテーマとした標語 入賞作品の発表について



公共交通の利用促進をテーマとした「標語」については、市内の小・中学校をはじめ、たくさんの皆様から741作品もの応募いただき、ありがとうございます。

すべての作品について、協議会での厳正な審査の結果、下記の12作品が入賞されましたのでご紹介します。入賞作品は、今後の公共交通の利用促進のために、時刻表や横断幕などで幅広く活用させていただきます。



協議会長賞

「バスの中 広がるつながる 地域の輪」

木津南中学校 3年 岡嶋 莉子

副会長賞

「乗ってみて 初めて気づく 木津川市」

加茂小学校 6年 堤原 優



優秀賞

「コミバスのって ちきゅうもえがお みんなもえがお」

相楽小学校 2年 吉見 逞都

「乗るたびに 人とのつながり ふかくなる」

加茂小学校 6年 吉田 佳煌

「ゆずり合い ほほえむ皆を つつむバス」

梅美台小学校 6年 舩井 海楽

「さあ乗ろう 笑顔あふれる コミバスへ」

加茂小学校 6年 北林 陽

「どこまでも 僕らをつなぐ 町の脚」

梅美台小学校 6年 上崎 稟月

「コミバスは 皆の暮らしの 応援団」

一般 渡辺 英記

「でんしゃバス みんなでのると たのしいな」

城山台小学校 1年 竹内 愛唄

「コミバスを みんなの力で 混みバスに」

一般 松谷 泰

「窓を見る いつもの町並み ほっとする」

加茂小学校 6年 浦井 琉苒

「思いやる 心を育てる バスの中」

一般 大山 忍

公共交通利用者の声



この度、コミバス利用者から心温まるご意見をいただきましたので紹介いたします。

公共交通利用者の声は随時募集しておりますので、皆様の公共交通に関するご意見や、エピソードがございましたら、下記アドレスまでご連絡ください。

ご意見【一部抜粋】

それはまだ暑い夏の昼下がりでした。木津駅からきのつバスに乗った時のこと。車内には2～3人の女性客、若いおかあさん&幼い姉妹と私。幼い姉妹は一番後ろの席で楽しそうにずーっとはしゃいでいました。

やがて山田川駅での降車ボタンが鳴ったと気付いて、おねえちゃんが「あーっ、私が押したかったのにい～！誰が押したの～!!」と騒ぎ出しました。

あんまり騒ぐので、『やれやれ、押した人が気の毒だわ』と

思っていたら、踏み切りで停まったタ イミングで若い運転手さんが大きな声 で呼びかけました。

「リセットしたから、押してごら ん。」

降車ボタンを押して、ピンポーンと いう音を聞いておねえちゃんとはとっ てもとっても嬉しそうでした。

山田川駅でおかあさんと姉妹は何度も何度もお礼を言 いながら降りて行きました。

地域に密着したのどかなきのつバスならではの優しく て素敵な光景に私までなんだかしあわせな気分になりま した。



公共交通は、みなさまのご利用によって成り立っています。
鉄道やコミバス等の一層のご利用をお願いします。